

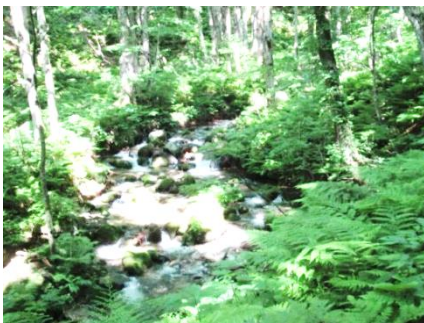
鏡山（1339m）

平成 30 年 6 月 24 日（日）快晴

平子、秋葉、渡辺(敏)、大和田、甲高、吉田(睦)、柏村、設楽、志尾崎、栗崎夫婦、伊藤、渋谷、石城登山教室生徒

石城登山教室の 6 月実技山行は、鏡山（福島県西会津町と新潟県阿賀町との県境にある）のため、早めの午前 5 時に県いわき合同庁舎駐車場を出発。

弥生集落に着き、簡単な準備運動し、弥生（久良谷沢）ルートで 8 時 12 分スタート。



長い久良谷沢林道歩きでしたが、緑と清水の美しさが印象的でした。

林道が終わり登山道にはりましたが、視界がなく単調な印象。弥平四郎登山口コースとの合流点では、休憩と平子会長の臨時コンパス教室が

行われました。合流点から山頂までの登山道も単調で面白味がなく、さらに悪臭を放つ動物のフンが長い区間にあり最悪。最後の急坂を登りきり、12 時 16 分山頂に到着。

飯豊連峰南部を見わたす大展望は素晴らしく感動しました。12 時 57 分下山開始。





文責：芳賀

写真：柏村さんが撮影

時間：Geographica から
推定

金石ヶ鳥屋山 ソロ立ち寄り

2018年6月23日（土） 太

只見町に行く途中、うつくしま百名山のひとつ、金石ヶ鳥屋山(969.6m)に立ち寄ることにした。深沢温泉「季の里湯ら里」の約2km手前、明和橋たもとから山に向かって車を進める。狭い荒れた林道を登ってゆくと、800mを超えたあたりで土砂崩れが行く手を阻む。カーブに面する待避所に駐車し、土砂崩れを乗り越え、徒歩で進む。

登山口は、俎倉山への林道の途中にあり、案内板はないが、地形や目印となる巨木ですぐにわかる。登山口から少し下って登り返すと小ピーク。藪っぽいので登山道を見失いそうになる。振り返れば俎倉山のテレビアンテナが見える。

二つ目のピーク(910m?)は、足下に小さな石積みコンクリート擁壁。何か施設跡かもしれない。ピークを下ると藪だが、注意すれば踏み跡は意外としっかり。クマに用心し、念のために持参した笛を吹いてみる。藪を過ぎると急登になり、山刀で小枝を払いながら登る。



三つめのピークが金石ヶ鳥屋山の山頂。開けているが周囲の樹木であまり視界が広がらない。かつての通信施設も今はなく、頂上を示すものは三角点だけ。暫し休憩の後、登山口まで戻り、再び林道を歩いて今度は俎倉山を目指す。

俎倉山の山頂には、テレビアンテナほか通信施設が複数あるが、ここからの眺望は素晴らしい。眼下に伊南川、対岸に「季の里

湯ら里」が、ずっと向こうには会津朝日岳、会津駒ヶ岳、霞んでいるが燧ヶ岳。下流側には雪渓をまとった浅草岳がくっきり。そのほか、ぐるり名だたる山々が一望できる。



眺望を堪能した後は、朝食を摂って下山を開始。花はあまりなく、ワラビ、山ウドなど豊富な山菜を横目に林道をゆっくり下る。登山口を過ぎ、金石ヶ鳥屋山のスラブを眺めながら歩いてゆくと、無事に駐車した場所に到着。

ひとりでクマに遭遇せずに済んだことに安堵しつつ、只見町の「ひとつぶろまち湯」へと車を走らせた。

コースタイム

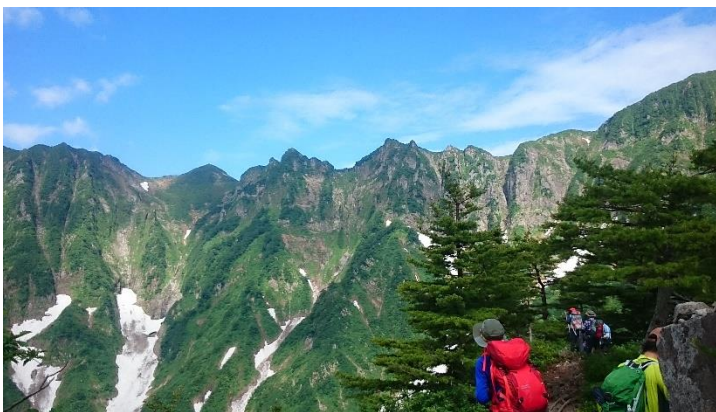
6:44 金石ヶ鳥屋山登山口→金石ヶ鳥屋山山頂 7:36→金石ヶ鳥屋山登山口→8:50 俎倉山山頂→9:42 金石ヶ鳥屋山登山口 (文責：太)

浅草岳山開き (只見沢→山頂→入叶津)

2018年6月24日(日) 太

5時11分、山開き集合場所の只見駅前に駐車。5時30分、只見沢登山口に向け、大型バス(無料)数台が順次出発。5時56分、バスが登山口に到着。登山届と引き換えに記念バッジを貰う。6時10分、山開き式開始。神事、町長あいさつ、注意事項説明がある。

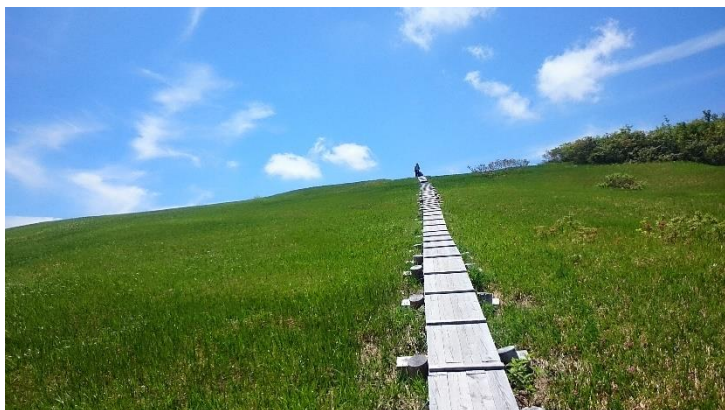
6時33分、山開き式終了。御神酒、コウナゴをいただき、登山開始。沢に沿った樹林の中、徐々に高度を上げていく。「熊の爪跡」を過ぎ「中先尾根」を登ると、徐々に視界が広がる。



「田子倉眺め」は、岩尾根から浅草岳を仰ぎ、只見湖が眼下に見渡せる。「鬼ヶ面眺め」は、圧倒的な風景が眼前に迫る。登山ルートで最も絶景なのが、剣ヶ峰付近だ。仰ぎ見る断崖は、荒々しくも美しい自然の造形。山頂から覗き込む場合とは異なり神々しさも感じる。

「足止め平」を過ぎると急坂になり、ヒメサユリや、雪渓からの涼風に癒されながら登っていく。入叶津登山口との分岐に到着し、左折すると山頂。平場が狭く賑わっていたが、混雑はない。新潟側、守門岳がはっきり見える。頂上を譲って「天狗の庭」へ下る少し手前で休憩、食事を摂る。

下山は、池塘のある大草原「天狗の庭」を木道で進む。振り返ると青々とした草原の中を木道が一直



線に空まで続いていた。草原を過ぎ、雪溪を右に、小藪を左に見ながら進むと、シラネアオイが見られた。「避難小屋跡」辺りで雪溪を横断し、少し進むと樹林帯に入る。ここからガマンで、尾根の林の中「ブナ平新道」をずっと歩く。「すだれの上」以外、見晴らしのない下りが続く。「山神杉」辺りまでは緩やかに、以降の急斜面は折り返しながら下りていく。

14 時 31 分、入叶津登山口に到着。冷やし甘酒と冷たい麦茶の振舞いに感謝。温泉割引券もいただいた。下山者が 9 人揃うと乗合タクシー（ひとり 600 円）は順次発車し、只見駅前へ向かう。

14 時 51 分、只見駅に到着し、絶景を思い出に、家路へと車を進める。

コースタイム

6：33 只見沢登山口→6：56 仮設橋→7：33 熊の爪跡→8：04 田子倉眺め→8：43 鬼ヶ面眺め→9：00 熊合せ→10：38 山頂→11：12 天狗の庭→11：40 避難小屋跡→13：27 すだれの上→12：42 沼の平分岐→13：02 平石山→13：33 山神杉→14：07 叶津川眺め→14：31 入叶津登山口
（文責：太）

2018年 守門岳

2018年6月24日

参加者 18名

タイム：民宿 治兵衛 5 時 30 分出発 マイクロバスにて大原登山口へ
6 時 10 分スタート 14 時 40 分下山

登楽喜会主催の 6 月山行に同行させていただく。

山岳会から下山田、馬場、根本、山縣参加。

前日の浅草岳登山の疲れもなく、参加者全員元気に宿を出発。宿泊の記念として、ライト付ペン（全員）とコシヒカリ 2 ㍓を頂く。食事もおいしく雰囲気の良い宿。大原登山口から登山開始。本日山開きとのことで、出発前に全員へお札を頂く。

6 時 10 分山菜畑を通り山頂を目指してスタート。

天気は快晴。下界は予想最高気温 28℃と暑い一日になりそう。

出発してほどなくロープ設置の急登が何か所か続く。頑張って登っていくと中腹あたりに白・赤・ピンクのイワカガミ。山頂付近には、ヒメシャガ・ニッコウキスゲ・サンカヨウが咲いており疲れを忘れさせてくれた。





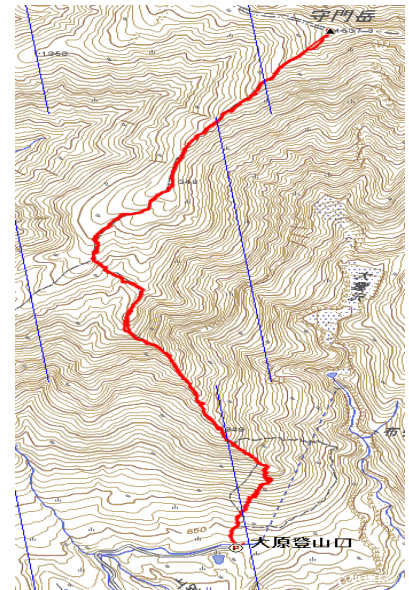
10時20分頂上着。団体ツアー客もあり、賑やかな山頂。頂上からは、ところどころに雪をまとった美しい越後三山・燧ヶ岳・会津駒ヶ岳などが見える絶景。

宿で作ってもらった大きなおにぎりの昼食。11時10分下山開始。

残雪の急斜面でアイゼン使用。神経を使いつつゆっくり下山。転倒した方がいたが大事に至らず安堵する。雪渓付近は冷たい風が吹き上げ、汗ばんだ体に心地良い。雪解けの冷たい水に喉を潤し元気をもらう。

15時前には全員無事下山完了。

快く同行させていただいた登楽喜会の皆様に感謝。



(文責：山縣紀子)

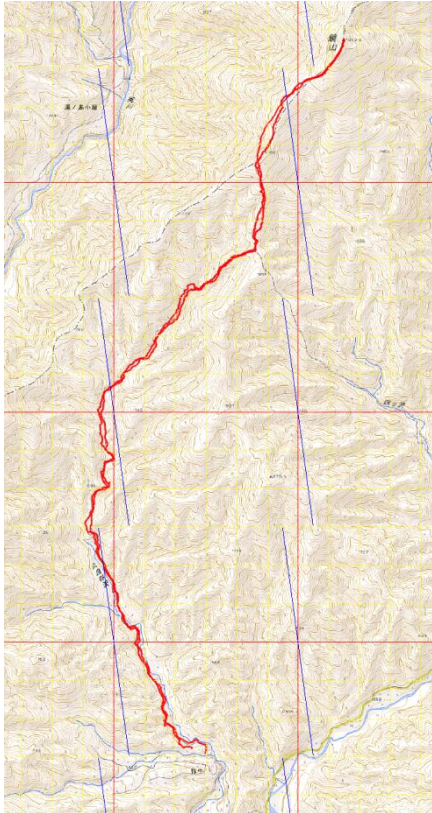
石城登山教室 6月山行 「鏡山 1338.9m」

6月24日(日) 参加者 登山教室 15名、会員 11名

梅雨の真ただ中、天候が心配でしたが運よく好天に恵まれ楽しい山行ができました。登山教室の参加者が15名と多く、体力的に差があると思われるので、参加者を二班に分け、もし一緒に行くのがきつい場合は各班から遅れても構わないので、最後の責任者が面倒を見るところとして出発した。出発地点から登山口まで約5kmの1時間20分林道歩きが少々大変でした。登山口からは山道となり林の中、どんどん高度を上げていきます。途中で水場があり冷たい水を補給できました。尾根に上がり登り下りを繰り返すとほどなく飯豊連峰が視界に入る鏡山山頂に到着しました。山頂からは大日岳から御西岳、本山、草履塚、種蒔山と飯豊の主要稜線が一望でき素晴らしいパノラマを堪能できました。鏡山は飯豊山の展望台として楽しめる山です。今回は存分に飯豊山の展望を楽しむことができました。出発地点に戻ってきた時、先頭と最後尾の間には約1時間の差ができてしまいました。しかし、それぞれのペースで楽しく無事に山行を終わることができました。

コースタイム 5:00 合同庁舎出発 7:55 弥生集落 8:20 出発→9:35 登山口 9:55→10:15 弥平四郎分岐→10:25 水場 10:35→11:39 鏡山 12:34→13:15 水場 13:21→13:30 弥平四郎分岐→





13:45 登山口→14:53 弥生集落 19:25 合同庁舎到着
累積標高差 1038m、経過時間 6:33（最後尾 7:40）

文責 渡辺敏夫



武甲山 1304m

7月2日（月） 秋葉、下山田、栗崎（透）、栗崎（容）、渡辺（敏）

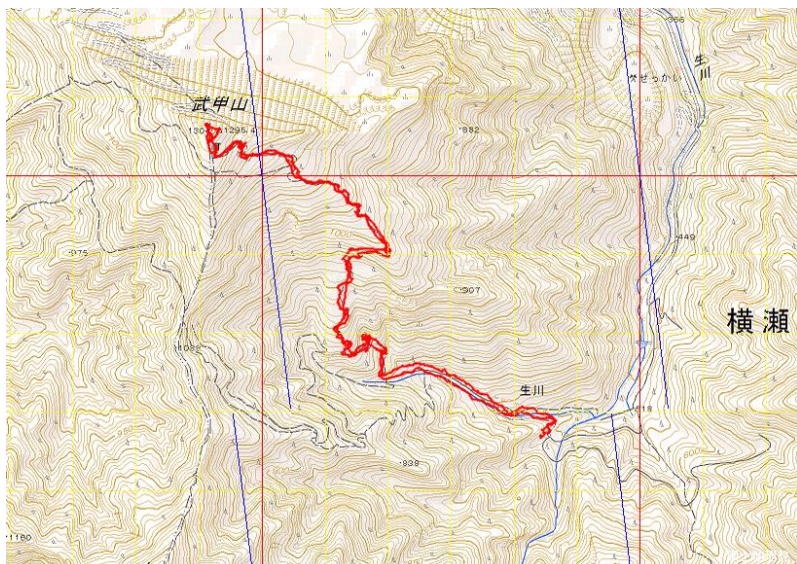
7月2～3日の予定で虎毛山に登る予定だったが、東北の北部の天気が悪いので急遽天気の良い関東地区の武甲山と両神山へと出かけた。



武甲山の山頂から秩父市街

7月2日（月）6:00に湯本を出発、武甲山の生川（うぶかわ）登山口の道路わきに車を止めて歩き始めた。生い茂った樹木の中の登山道脇に、各種の石像と丁目の番号を書いた石柱を見ながら登ってゆく。九丁目から始まって、最後は何丁目になるかと数えながら五十一丁目の石柱を見送ると頂上近くの御嶽神社に到着した。そこから間もなくで山頂に到着した。山頂からは秩父の街並みが眼下に望むことができる。天候は晴れだが、もやのため

に見通しがいいまいちで遠くの山並みがはっきりと見えない。武甲山は石灰岩の山で山の北半分はセメントの原料のために削り取られて、遠くから見ると痛々しい感じがする。しかし、南側はうっそうとした杉の大木や所々の石像が昔からの歴史をしのばせる佇まいで、風情があり信仰のありがたさを感じ取ることができる。



コースタイム

生川登山口 10:31→12:26 御嶽神社→12:37 武甲山山頂 12:37→12:55 御嶽神社→14:20 登山口

文責 渡辺敏夫

『ヘッポコの劔岳早川尾根山行記』

菅野靖司

6月は、花見山行を計画するのが恒例でしたが、雪の少ない今年は劔岳に入る事にしました。6月21日(木)～24日(日)ののんびり山行です。強者はピストン山行です。

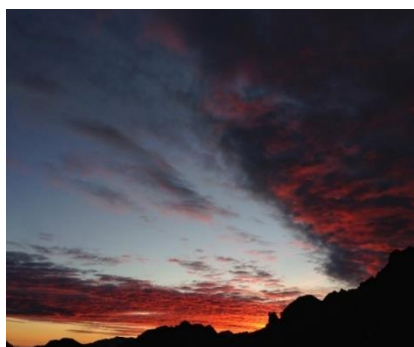
6月21日(木)会社終了後出発！途中仮眠を取りながら滑川ICに到着。

6月22日(金)上市駅にて友人をピックアップ。馬場島登山口へ移動。

登山口が近づくにつれ、雪化粧の立山が見えてきました。これから登ると思うと感激です。

早川小屋が開いていないのか？駐車場には車1台しか有りませんでした。不安を覚えながら途中の水場が無い為3Lの水を用意し、登山口の菩薩様とカエル君にお祈りして出発”今回は、共同テント持ちなので荷物が重い！1900m辺りから残雪、軽アイゼン装着。

雪が締まって硬く足の運びには、とても気を遣いました。



早川小屋前は、半分ほど地面が見えていたのでそこにテント貼り。綺麗な富山湾と富山市の夜景を堪能し睡眠。

6月23日(土) 午後から雨予報！12時下山予定で6時出発。雪と岩を堪能しながら、軽アイゼンを装着したり外したりしての山行です。氷壁は、ピッケル2本を使っての登りです。12本アイゼンの方が良かったです。下山時にすれ違った地元の方々は、12本アイゼン装着でした。頂上では、富士山から能登半島まで見える雄大なパノラマを堪能出来ました。

登って来る人も居ないので、社の前でゆっくりコーヒータイム。『パノラマを見ながらの至福の時』は、やめられません！特に劔山頂でパノラマが見られたのは、初めてでした。予定通り？午後から雨でした。ソロ山行では、読書タイムですが、今回は山行失敗談で盛り上がりました。



6月24日(日)快晴！早川尾根東側から綺麗な御来光を眺め、ゆっくりと撤収。馬場島荘の入浴時間に合わせて下山。流石に北アルプス三大急登の下りは、足にキツイです。これで、三大急登制覇” & 劔力二制覇” 馬場島荘にて1番風呂を頂き山行終了。コーラで乾杯！この時期、雪と岩の殿堂劔岳を堪能できるいい季節でお薦めです。登山者も少ない。

「両神山」

2018年7月2・3日(月・火)

参加者 秋葉、渡辺(敏)、下山田、馬場、栗崎透、栗崎容子

いわきを出発して、まずは秩父の名山・武甲山に登り(渡辺さんによる別レポート参照)、下山して車で移動。両神山の日向大谷登山口に到着したのは四時でした。

武甲山のサブザックから、小屋泊宴会登り重ザックに変えて登り始めたのが四時半近くに。良い子は真似をしてはいけない登山時間です。

ただ、清滝小屋までの2時間ほどの登りですので、明るいうちに到着する予定でした。

登山道は薄川(すすきがわ)を高巻きする、左側が切れ落ちている道が会所まで続きます。ここで一本いれます。

ここからは七滝沢への道を右に見て、薄川に沿って登ります。

4回ほど渡渉をすると、川から離れて急登を登るように地形図では読み取れますが、実際の登山道は川沿いをたどります。





途中、綺麗な黄鈎舟(キツリフネ)に癒され、弘法井戸の冷たい湧水に元気をもらい、まだ明るい7時前に清滝小屋に到着しました。
貸切の小屋前で、ジンギスカンの夜は夜中まで続きました。



翌日、復帰後初の小屋泊まりで少し疲れた下山田さん以外の5名で山頂を目指します。



両神神社まではしっかり登らされます。鎖場やハシゴなどがところどころありますが、問題なく通過できます。

神社で今までの山行の無事のお礼をして、この先の安全をお願いします。緩やかな尾根を



たどり、最後の急登を切り切れば、両神山山頂に到着しました。

南、東側からガスがあがって真っ白でしたが、ほんの少し、ガスの切れ間から、奥

秩父の甲武信や金峰、富士山が顔を覗かせてくれました。

先輩方との楽しく、勉強になった埼玉遠征でした。(文責 栗崎 透)

「焼石岳」

2018年6月18-19日(月・火)

山名 焼石岳。標高 1,548m。岩手県南西部。焼石連峰の主峰で栗駒国定公園の一部。

参加者 秋葉、栗崎(透)、栗崎(容) 計3名

山行の3日前では「肘折温泉～念仏ヶ原避難小屋泊(2泊)～月山」の予定で準備していました。残雪の様子とそれに伴うアイゼンの情報を得ようと「月山ビジターセンター」に問い合わせたところ、その先の避難小屋管理の大蔵村からの回答も併せると「今年の念仏小屋周辺はいつもより雪が多く、先日下見に行ったがたどり着けなかった。もしかするとまだ小屋が雪に埋もれていることも考えられ、オススメはできない」といった内容の返答。これを受けて急きょ変更した山が焼石岳でした。

色々な方のレポートで「花の名山」として目にするのはあったものの全くノーチェックだった焼石岳。あたふたと地図を用意し、わずかな時間でわずかな情報をチェックし(私は・・・ですよ)、好天を神に祈って出かけました。

行動予定 6/18 夏油温泉登山口～経塚山～金名水避難小屋泊

6/19 金名水避難小屋～焼石岳～金名水避難小屋～経塚山～夏油温泉登山口

5時、クリサキ駐車場を出発。一路北に走り 8:57 夏油温泉着。

車高の高い 4WD 車ならさらに林道を進める・・・ということで、これまでの酷林道 No1 とも思える道をギタタンバコン、ガリガリと進み、9:16 登山口に到着(ここの表示は「経塚山登山口」)、9:33 歩き出しました。

歩き始めは激下りから。途中、赤い色の橋の親柱のような構造物?を見て、グイグイ沢まで下ろされて夏油川を渡渉。結構水量のある渡渉で、山行中に雨が降って水量増えませんかのように!!と祈って歩を進めます。

この後、たっぷり降ろされた分を取り戻すようなロープ付き急登。その後も木々に包まれた登りがしばらく続きますが、足元に現れる花たちのおかげで楽しく登ります。ここまででギンラン、ギンリョウソウ、イワカガミ、ツクバネソウ、ツツジ(詳しくは?)、サラサドウダンの濃い薄いの、おまけにサンショウウオの卵たくさん!



11:20 ほどなく緩やかな道になり木道が現れると、ツマトリソウ、ズダクシュが顔を見せます。

11:40 水場。チョロチョロの沢水でスルー。キクザキイチゲの涼しげな顔を見ながら進むと

11:50「御坪の松」に到着。残雪に覆われた小庭だったので、各々岩や木の枝やらをイスにして25分ほどランチ休憩に。残雪のおかげか、クールダウンできたランチタイムでした。

鈴なりの花が可愛いサラサドウダン花を頭上にしながら進み、一度パッと開けた空間に飛び出すも、沢を歩き横切る地形に入ると、またまたお花たちの饗宴が始まり、木道が現れるとカーニバル状態♪

マルバキスミレ?、サンカヨウ、シラネアオイ、オオバキスミレ、ズダクシュ、マイヅルソウ、ハクサンチドリ、ミズバショウ(葉だけ)、ショウジョウバカマ、オオカメノキ等々。雪溪の上を歩き夏道に戻ると、アカモノ、ヨツバシオガマ、

ミヤマカラマツ、ミヤマキンバイ、ミヤマダイコンソウ、オノエランと楽しい。が、午後1時を過ぎてそろそろ経塚山山頂か?というのに空模様がなんとなくガスで白くなってきました。ミネウスユキソウ、





タカネスミレ?、そして紫色ののチシマフウロ(この時はタカネグンナイフウロと思っていましたが調べたらチシマ…らしいです)がたくさん咲き始め

13:33 経塚山(H1,373m)に到着! ガスで真っ白、何も見えません。ガスの水分を含んだ風が冷たく一気に体が冷やされます。早々に先へ進もう…と思った矢先、青空が!!

ほんのつかの間でしたが、ぐるりの周りの山々を眺めることができました♪

まさに山の神の采配に感謝! 結局20分ほど山頂を楽しみました。

経塚山からの下り、厚いガスの海めがけて下ってゆく二人はなんともカッコ良かったです。



賽の河原への下り道は、チシマフウロ、ミヤマダイコンソウ、ハクサンイチゲ、オノエラン、ミヤマキンバイ、ハクサンチドリとにぎやか。賽の河原はチシマフウロのカーニバルでした♪

この後コルに降り、小ピークを二つ越え、低木に囲まれた沢道を雪渓を歩いたりえぐれた土の上を歩いたり、次々に現れるスプリングエフェメラルを撮ったり

りして、15:25 冷たくて美味しくて水量たっぷりの金名水流れる「金名水避難小屋」に到着! とっても立派でキレイな避難小屋です。先客はナシ。(1時間ほど後にご夫婦一組到着。二階へ) 1階に陣取り宴会に。途中収穫してきたトリアシショウマの若葉とコシアブラをお浸しにしたり、炒めてからチャーハンに入れたり山での幸で夕食のポイントが俄然アップ!! 美味しかった〜!

2日目は長丁場の一日。朝食は歩き始めてから撮ることに変更して4:40に出発。

残念ながら出発の準備中に霧雨が降り始め、サブザックにカッパ上下を着込んでのスタート。白い景色の中、足元の花を楽しみに進みます。

チングルマ、ミヤマハンショウズル、ミズバショウ、シラネアオイが顔を出します。

何気に登り・下りを何度も繰り返す登山道、結構疲れます。展望があれば違うのでしょうか。

6:05 六沢山に到着。ここでササッと朝食をとり燃料注入!

サクサク進む中チングルマは綿毛になって、ハクサンイチゲが首を伸ばし、ゴゼンタチバナ、ヨツバシオガマ、ミヤマダイコンソウ、ムシトリスミレなんか咲いていました。

6:40 東焼石岳。真っ白。晴れていれば焼石岳がバーン!! なハズなんです。

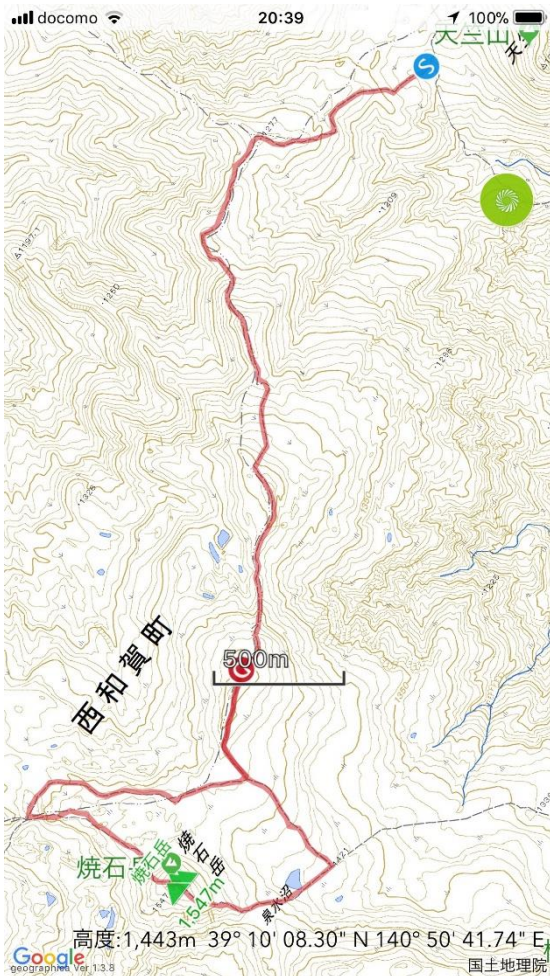
それでも足元は花・花・花のカーニバルです。

7:00 姥石平。

ここで楽しみにしていたヒナザクラが♪ ガスと霧雨でしっとり濡れています。

次に泉水沼の表示。まだ大半は雪に覆われていました。

ここで雪田が現れ、しばし雪上歩き。夏道が現れると、チングルマが咲き誇っていました。



7:24 焼石岳山頂に到着! なんと、ガスは少し残るも、青空が広がりだしました!!

遠望こそ望めませんが、取り巻く周りの山々ははっきり見えてきました。

北東北の山、南東北の山とはひと味違う良さがありますね! のんびりとして、たおやかで優しい♪

いつまでも眺めていたい山景色でした。ここで青空をくれたお天気の神様に感謝!!

7:58 下ります。この山頂付近はぐるり周回できるようになっているようで、来た道と反対側のルート歩いて東焼石岳へと戻り、そこからは来た道を小屋へと帰ります。コチラのルートは、最初は大岩ゴロゴロのお楽しみ、そしてそれが終わるとやはりお花だらけの登山道…と楽しい帰路でした。

小屋には 10 時頃に到着(カメラの電池切れで正確ではない)、昼食を摂り、帰り支度をして

11:13 金名水避難小屋を後にし、昨日来た道をたどり 15:42 に車に帰着しました。

けっこうハードなスケジュールでしたが、たくさんの可愛い花たちに出会え、ピンポイントで

北東北の素晴らしい山景色も楽しめたステキな山行でした。

急遽この山を提案していただいた秋葉さんに感謝です。いつか秋の紅葉の季節にも会いに来たいです。

ああ、山は素敵だ♪ (文責 栗崎容子)